

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 23 日現在

機関番号：23803

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2015

課題番号：26590095

研究課題名(和文) アジア系専門職移民の文化・社会活動と多文化主義 オーストラリアを事例として

研究課題名(英文) Multiculturalism and the Cultural and Social Activities of Asian Migrant Professionals: The Case of Australia

研究代表者

石井 由香 (ISHII, Yuka)

静岡県立大学・国際関係学部・教授

研究者番号：20319487

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、経済重視の方向へと多文化主義の「変容」が指摘されるオーストラリアにおいて、アジア系専門職移民の中に自らのルーツを踏まえ、市民としてホスト社会への「参加」を行う人々が現れていることを踏まえ、アジア系移民作家による文化・社会活動に関する分析枠組みを精緻化することを目指した。アジア系移民作家作品の文学賞、批評における評価、英語教育におけるアジア系移民作家作品の位置付け、アジア系移民作家の文化・社会活動についての調査分析を通じて、アジア系移民作家の作品および文化・社会参加がホスト社会における多文化主義理解に働きかける道筋とその現時点での成果、多文化主義への示唆について考察した。

研究成果の概要(英文)：This study aims to refine the analytical framework of the cultural and social activities of Asian-Australian writers, in light of the understanding of the emergence of Asian migrant professionals who “participate in” the host society as Australian citizens with their Asian backgrounds under the policy of an economically-oriented multiculturalism. The study examined the evaluation of Asian-Australian writers’ works by Australian literature prizes and reviews, the position of Asian-Australian writers’ works in English language education and the cultural and social activities of Asian-Australian writers. Through this analysis, the study considered the cultural and social channels for Asian-Australian writers to deepen understandings of multiculturalism in the host society and the current results and suggestions for Australian multiculturalism derived from their activities and thoughts.

研究分野：国際社会学

キーワード：社会学 アジア系専門職移民 多文化主義 オーストラリア 文化・社会参加

1. 研究開始当初の背景

専門職移民は、一般的にホスト社会への文化・社会的適応には問題がないと考えられ、経済的貢献が主に注目される傾向がある。オーストラリアの多文化主義は福祉主義的多文化主義から経済主義的多文化主義へと変容していることが指摘されており(関根政美) 経済重視の多文化主義において、アジア系専門職移民は「歓迎される」存在である。しかし実際には、ホスト社会において根強い差別、移民排斥運動にしばしばさらされてきたことから、オーストラリアではアジア系専門職移民の間に、これに対抗しようとする政治・社会的な活動が見られ始めている。

こうした動向について、専門職移民の階層的優位性を踏まえた形での分析が十分に行われているとは言い難かった。エスニシティ論において、ホスト社会で中間的な地位を占める移民は、中間マイノリティ論に見られるように、従来一時的滞在者、もしくは経済的利益を享受できればホスト社会に政治・社会的には深く関わらない者としてとらえられがちであった。マイグレーション論における昨今の高度技能移民への関心も、専門性、技能レベルの高い移民を引きつける移民政策や、就労環境、就労形態に関する研究が主であった。

問題意識を共有する先行研究としては、移民国の状況に関する *From Urban Enclave to Ethnic Suburb* (Li ed. 2006)があるが、これは地理学的な関心に基づくものであった。また、研究代表者は、本研究に先立ってオーストラリアのアジア系専門職移民の政治・社会参加に注目し、科学研究費を受けて共同調査を行った(石井・関根・塩原 2009)。ここでは研究代表者はエスニック・アソシエーションの活動を主な分析対象としていたが、研究途上で、またその後の状況を追う中で、アジア系専門職移民の一部であるアジア系移民作家の小説、自叙伝、評論など各種の表現を通じた文化・社会活動に注目し、動きがあると考え、本研究を構想するに至った。

2. 研究の目的

本研究は、オーストラリアのアジア系専門職移民の中に、ホスト社会の一員としての意識とアジア系の文化、ルーツへの意識を両方も保持した上で、市民としてホスト社会への「参加」を行う人びとが現れていることを踏まえ、アジア系移民作家による小説・自叙伝などを通じた文化・社会活動に関する分析枠組みを精緻化することを目的とした。本研究は移民政策のなかでも特に統合政策との関連に注目し、オーストラリアの経済主義的多文化主義下でのアジア系移民作家による文化・社会参加、多文化主義への評価と、アジア系移民作家の作品、活動が今後の統合政策、多文化主義にもたらす示唆について考察した。

3. 研究の方法

(1) 資料・情報収集の方法

本研究では、文献調査および現地調査により、アジア系移民作家の作品の文学賞、批評における評価状況、教育カリキュラムにおける採用状況、(英語教育における移民作家作品、多文化状況を反映した作品の採用状況)、アジア系移民作家の文化・社会活動についてデータを収集した。

文献調査については、インターネット、国内外の図書館、書店を通じて、関連の書籍、論文、各種データを収集した。

現地調査地は、アジア系移民が多く、移民作家の活動が見られる州の州都として、プリズベン(クウィーンズランド州)、シドニー(ニュー・サウス・ウェールズ州)、メルボルン(ヴィクトリア州)の3都市を選定した。2014年9月に13日間のプリズベン・シドニー調査、2015年5月に7日間のシドニー調査、8月に12日間のメルボルン調査、11月に6日間のメルボルン調査を実施した。

現地調査では、各州の教育関連機関、アジア文化・教育関連組織におけるインタビューを行った。また、プリズベン・ライターズ・フェスティバル(2014年9月)、シドニー・ライターズ・フェスティバル(2015年5月)、メルボルン・ライターズ・フェスティバル(2015年8月)に参加し、アジア系移民作家の文化・社会活動および文学と多文化主義に関連する情報を入手した。さらに、Asian Australian Studies Research Networkの研究大会(2015年11月)にも参加し、アジア系オーストラリア人研究の最新の研究動向に関する情報を入手した。

(2) 分析の方法

アジア系移民が発信する小説や自叙伝については、かつては移民コミュニティの内部でのみ流通するものが多く、一般市場に流通するものは限られていた。また、一般向けに出版されたものも、一種のオリエンタリズムともいべき消費の対象としての性格(難民としての苦難やアジア社会で虐げられる女性の物語)を多分に持っていた。

これに対し、本研究が注目するのは、ホスト社会における生活経験のなかから生成される文化の「日常的ハイブリディティ」をとらえるアジア系移民作家の著作内容と、その主流への発信の試みである。本研究では、2000年代以降に活動するようになったアジア系移民作家に注目し、その小説、自叙伝などの著作のコンテンツとその読まれ方を移民のホスト社会への文化・社会参加の視点から分析しようと試みた。

また、移民の国民統合を、文学賞、文学イベントなどへの参加、教育カリキュラムにおける移民文学の採用状況などの指標から考察しようとする試みが、すでにドイツ、イギリスの国民統合の評価について行われていた(Lacroix 2010)。本研究では、こうした試

みを参照しつつ、これらの指標を移民にとってのホスト社会における文化・社会的な機会と読み替えて整理、精緻化し、アジア系移民作家がそうした機会にどこまで働きかけているのかをとらえようとした。これは、文学および作家の文化・社会活動を社会運動論的視点から分析対象とするという点で、学際的なアプローチとしての新たな試みを行ったものである。

4. 研究成果

(1) アジア系移民作家の作品の評価、文化・社会活動と多文化主義

まず、2000年代以降のアジア系移民作家、アジア系オーストラリア人作家による作品の「新しい動向」について、その詳細を先行研究、書評から把握した。アジア系の作品が現れてきたのは比較的新しく、1980年代から90年代のことであるが、はじめは第1世代の離国作家、ディアスポラ作家としての直接的な物語が多かった。またオーストラリアの文学研究においても当初はそれほどまとまった関心を持たれてはいなかったとされる。

しかし、高い教育を受け、英語での仕事、生活に支障がないアジア系移民が増えるにつれ、1.5世代、第2世代の作家が登場し、独創的な作品を発表し始めた。2000年代に入ると、そうしたアジア系オーストラリア人作家の作品への関心が持たれるようになってきた。Brian Castro、Alice Pung、Nam Le、Shaun Tan、Tom Choといった作家の作品は、オーストラリアの、また英語圏の文学市場に発信され、読者を得ている。しばしば英語以外の言語に翻訳もされている。その内容は、それぞれの文化的ハイブリディティが投影されたものであり、移民の経験や文化的多様性について深く考えさせる内容を持っている。

本研究では、これらの作家のなかで Alice Pung に注目し、Pung の作品の内容と評価、文化・社会活動について分析を行った。Pung はオーストラリア生まれのカンボジア出身の華人系で、第2世代の作家であり、弁護士活動と並行して執筆活動を開始した。自叙伝 *Unpolished Gem* (『磨かれぬ原石』) (2006) ではメルボルン郊外における子ども時代から大学時代までの自らの成長と家族との関わりを描いた。編著 *Growing Up Asian in Australia* (『オーストラリア育ちのアジア系』) (2008) では、50人以上のアジア系オーストラリア人の作品、語りをまとめた。編著の内容は、複数のアジア系専門職移民のオーストラリア社会における成長、生活経験の「一般化」を図り、アジア系オーストラリア人の存在と多様性を社会に訴えようとするものであると言える。アジア系オーストラリア人の「本質化」を巧みに避けつつ、国民文化、オーストラリアの主流に参入しようとする意図をより明確に持って本書を編集したことがうかがえる。

Pung の自叙伝は、文学作品として、またホスト社会の多文化主義理解に一石を投じる内容として、主要新聞および書評誌の書評、文学研究において高く評価され、文学賞でも受賞、ノミネートを複数得た。売上部数も、一般読者からの支持があると評価できる数であった。編著も、新聞や書評誌で取り上げられ、エスニック集団の枠を超えて広く読まれる書となった。また、Pung は教育に関心を持って活動しており、自著がテキストとして読まれることに積極的である。このことも、多くの読者を獲得し、経験を「共有」する上では重要な点であるといえよう。

Pung の作品とそのオーストラリアでの評価、文化・社会活動は、アジア系オーストラリア人作家が多文化主義を問い直し、国民文化のなかにアジア系オーストラリア人の経験を組み込んでいこうとする文化・社会参加の試みの一つの形としての評価が十分に可能である。現在は、グローバル化が進み、文化の混淆が至るところで起こり、欧米の文化を内面化したアジア系の人びとが多数存在する時代である。Pung の作品および文化・社会活動は、福祉主義的多文化主義、経済主義的多文化主義のどちらにおいても十分には達成されてこなかった白人と非白人、アングロ・ケルティック系の文化とそれ以外の文化、といった二項対立を越える内容を提示するものであると考えられることが、分析から明らかとなった。

Pung の作品と文化・社会活動をめぐる考察については、研究期間中に雑誌論文として公刊することができた。これと並行して、他のアジア系オーストラリア人作家の作品とオーストラリア社会での評価についての資料収集を行い、分析と比較考察を進めている。アジア系オーストラリア人作家の動向はそれぞれに多様であり、分析においても「本質化」を避けつつ、相違点と共通点を引き出していくことが必要である。その結果についても、今後論文等の形で発表していきたい。

(2) 文化・社会的機会とアジア系移民作家の作品および文化・社会活動

アジア系オーストラリア人作家の文化・社会活動を分析する際、ホスト社会の文化的ディスコースにいかに関与するかの観点から、移民作家にとっての文化・社会的機会を考える必要がある。これは、Pung の文化・社会活動でも意識されていると思われる、明らかにするべき点であった。本研究では社会運動論における政治的機会構造(社会運動に影響をおよぼす政治的環境)の概念を援用し、Lacroix の国民統合を評価する指標も参考にしながら移民作家をとりまく文化・社会的機会、環境の分析を試みた。

移民作家の文化・社会活動における文化・社会的機会として、まずオーストラリアにおける移民を含むマイノリティ文学に関する連邦・州の文化政策について資料調査を行っ

た。政府の作家活動への公的助成は、1960年代から増加し始めた。オーストラリアでは、連邦政府、州政府により、作家、出版社、雑誌、文学を発展させるプログラム、アーツ・フェスティバルやライターズ・ウィークなどのイベントへの助成、文学賞の設立が行われており、こうした機会は、アジア系オーストラリア人作家にとっても、作品を世に問い、広く社会に働きかける手段となっていると考えられる。これに加えて、ブリスベン、シドニー、メルボルンのライターズ・フェスティバルへの参加により、実際に作家がどのような企画により、どういった内容を語るのか、またどういった人びとがイベントに参加しているのか、参与観察および聞き取りを行った。

さらに、移民作家の作品が人びとに「読まれる」上では、学校の英語教育カリキュラムが注目される。オーストラリアの高校の英語教育においては、一般に出版された本がテキストとして使用されている。アジア系オーストラリア人作家の作品、またアジア系作家の作品も、少しずつテキストとして取り上げられるようになってきている。本研究では、テキストの選定過程と方針、取り上げられるテキストの内容を知るべく、クウィーンズランド、ニュー・サウス・ウェールズ、ヴィクトリア各州の高校英語教育カリキュラムに関する資料調査と州政府の英語教育カリキュラム担当部署におけるインタビューを実施した。いずれの州でも、選定のプロセスにおいては現場のニーズが反映され、それぞれの州の多様性が反映された形でテキストが選ばれている。資料調査、インタビューを通じて、多文化主義が包括するべき「多様性」を改めて問い直した上で、アジア系オーストラリア人作家の作品を位置づける必要性を感じた。

なお、現在オーストラリアでは連邦レベルの教育カリキュラムである Australian Curriculum の作成と導入が進みつつある。これまで州ごとのカリキュラムであったが、国家共通のカリキュラムの導入が今後どのような影響を及ぼすのかについて、さらに見ていくことが必要である。連邦レベルの政策として、オーストラリアはアジアとの関係を深めていく方針を持っているが、時期により、また政治情勢によってこの方針は変化する。教育においてもアジアへの理解を深めることが重視されており、連邦レベルでのアジア系オーストラリア人およびその文化の政策的な位置づけは、今後のアジア系移民作家の文化・社会参加のあり方にも影響を与える可能性があるだろう。

以上のように、本研究では、連邦・州の文化政策、教育政策を中心に、アジア系オーストラリア人作家の文化・社会参加に影響を与える文化・社会的機会を明らかにすることを試みた。これは多文化主義を考える上で、多様性がいかに「オーストラリア文化」に反映していくのかを明らかにするための方法で

あるとも言える。研究期間中に、基本的な状況については資料、情報を入手することができた。今後分析考察をさらに進め、成果発表につなげたい。

<引用文献>

石井由香・関根政美・塩原良和、慶應義塾大学出版会、アジア系専門職移民の現在 変容するマルチカルチュラル・オーストラリア、2009、195

Lacroix, Chantal, Palgrave, *Immigrants, Literature and National Integration*, 2010, 214

Li, Wei ed., University of Hawai'i Press, *From Urban Enclave to Ethnic Suburb*, 2006, 278

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)

石井由香、オーストラリア・アジア系専門職移民の文化・社会参加戦略 ある作家の自叙伝と文化・社会参加に注目して、国立民族学博物館研究報告、査読有、第40巻第3号、2016、pp.375-410、https://minpaku.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=4820&item_no=1&page_id=13&block_id=21

[学会発表](計 1件)

ISHII, Yuka, "The Cultural and Social Participation of Asian-Australian Writers: Their Experiences Growing-up and Living in a Multicultural Australia," オーストラリア学会創立25周年記念国際大会、2014年7月27日、上智大学。

[図書](計 0件)

[産業財産権]

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

[その他]

特になし

6. 研究組織

(1)研究代表者

石井 由香 (ISHII, Yuka)

静岡県立大学・国際関係学部・教授

研究者番号：20319487

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者
なし